



JSCA

北海道支部通信

2024年5月

designed by Y.Chida

○支部通信の発行にあたって

この度、しばらく休刊となっていた北海道支部の支部内広報を再開することになりました。コロナ禍により支部内での交流も減少してしまったことから、再度の活性化を計りたいと考えています。本号では昨年の振り返りとして23年度の活動について概説いたします。今後は会員にとって有益な情報を展開したいと考えていますので、皆さまから情報提供などのご協力を宜しくお願い致します。

(JSCA 北海道支部 広報企画委員会 編集委員長 岩淵)

1. 支部長より支部通信発刊に寄せて

昨年より以下の活動方針を進めて間もなく1年となります。

- 1) 若手が交流しやすい場をつくる
- 2) 構造設計の楽しさを感じやすい場を作る
- 3) 他支部との交流
- 4) 体制の簡素化

1) は、(仮)青年部会を今年の新春交礼会で発足しました。まずはメーリングリスト会員からスタートし、現場見学会、バスツアー、構造設計交流会などのイベントに若手が参加しやすい場を提供します。5/23に現場見学会からのランチ会を企画しました。徐々に若手が主体性をもってJSCA活動に参加あるいは独自イベントを実施してくれると期待します。

2) は、構造設計交流会は支部会員の発表に加え、全国から構造家を招いたり、他支部に来てもらったりと、活動を広げつつあります。バスツアーは今年で4回目となり、JSCA 会員・非会員に制限せず、構造設計を建築見学しつつ語り合いながら、温泉、食事と、親睦を深める素晴らしい企画に成長しました。

また、来年2025年は、2020年に開催した「けんちくこうぞう展」を、再度開催いたします。

構造計算をベースに、意匠・設備設計者や施工者の方々と協働して、住宅から公共建築まで、多様な構造を成立させる構造設計は、物理現象のみならず、社会に適用した空間を実現するクリエイティブな職能を要求されます。一方で、災害は地震をはじめ尽きることなく、複雑な社会情勢に変動する建設事情、法規に精通する必要があり、健康かつタフで柔軟な精神を持ち続ける必要があるハードな職種でもあります。

この楽しさと厳しさを、若手に背中ですすこと

が、ベテラン構造設計者の役割と考えますので、会員の皆様のご支援・ご協力を、何卒よろしくお願い申し上げます。(支部長 山脇克彦)

2. 2023年の支部活動

2023年度の活動についてご紹介します。

1) 総会(2023年支部通常総会、記念講演会)

コロナ感染症が5類に移行して初の会合として、6月14日(金)に支部通常総会を開催しました。23年は支部役員改選期であり山脇支部長による新体制でのスタートとなりました。講演会ではJSCA 名誉会員である加藤重信さん(東北支部)に東日本大震災時における東北支部の活動や構造設計者として如何に震災に対峙したかを「巨大地震の備えに構造設計者は?」と題してご講演いただきました。



23年度支部総会

講演中の加藤名誉会員

2) 道内建築バスツアー

コロナ禍で何とか開催している道内建築バスツアーも3回目となりました。

今回の見学先は安平町の早来学園(S・RC造、木造の複合構造)、苫小牧市の製材会社であるヨシダ明野北工場、苫小牧信用金庫本店まちなか交流館としています。早来学園(赤レンガ建築賞)は構造設計者である山脇支部長が自ら構造について解説され、参加者は設計上の思想や技術的な対処など詳しく知ることができました。また、ヨシダ

明野北工場では貯木状態や製材の過程などを見学させていただき、木造建築への取り組みに際しての留意点などを伺うことができました。苫小牧信金本店まちなか交流館は足湯が設けられた地域に開かれた小規模の木造建築です。当日は銀行が休日にもかかわらず見学にご対応いただきました。

見学後はバスツアーの恒例となりつつある温泉に立ち寄り、一つ風呂浴びた後は食事会で親睦を深めています。



早来学園校舎棟

ヨシダ明野北工場内部

3) 構造設計交流会

毎年恒例となっている北海道支部の構造設計交流会は12月8日(金)に開催されました。

支部会員から作品に関する発表や、設計上の小ネタ等が発表されています。また、鋼構造について各種検討を協働している北海道機械工業会の鉄骨部会様から、最近の鋼材需給動向などの情報や北広島のエスコンフィールド建設工事における鉄骨加工や組立についてご講演いただきました。今回(23年)の開催について特出すべきことは、九州支部との交流です。23年3月に北海道支部より7名が九州支部の張弦梁勉強会に参加させていただいており、今回は相互交流として九州支部会員から12名もの参加があり交流が図られました。

九州支部会員からは作品の発表や支部としての取り組みの紹介等をご発表いただきました。九州支部の活発な活動報告を伺い、参加者は良い刺激を受けたと思います。その後の意見交換会も含め、参加者は70名を超える人数となり大いに盛り上がりました。意見交換会後には九州支部の参加者と共に「すすきの」に繰り出し更に濃密な親睦を深めたことは言うまでもありません。



九州支部松田氏の発表

意見交換会の集合写真

4) 2024年講演会・新春交礼会

年が明けて2月1日(木)に支部講演会と新春交礼会が開催されました。今回は構造設計をつうじて様々な表現に取り組みされている、なわけんジム代表の名和研二さんにご講演いただきました。“「社」個性的な個性について 一拾う(ひろう)て 広う(ひろう) 構造デザイナー「モノをカタチにする」”と題してのご講演でした。

今回の新春交礼会では若手が主体的に活動する“青年部会(仮名)”の立上げが支部長のもと披露され、例年の交流だけでなくクイズゲームの実施など大いに盛り上がりました。参加者も70名と近年で最も多い参加者となっています。



講演会・新春交礼会の集合写真

3. 入会会員のご紹介

ここ数年はコロナ禍で会員相互の交流が減っていたことから、近年のJSCA会員および支部賛助会員ご入会の皆さまをご紹介します。

・千田芳治さん(砂子組)

2022年に入会した千田芳治(ちだよしはる)と申します。

大学卒業後に構造設計事務所に19年勤務し現在は株式会社砂子組に勤務しております。皆様の設計した物件を弊社で施工する機会もあると思いますのでその節は宜しくお願い致します。



・菅野丈志さん(さくら構造)

この度、JSCA北海道支部に入会しました菅野丈志(すがのたけし)と申します。北海道函館市出身で施工会社に約10年程勤務した後、2008年から構造設計事務所に勤務しております。



構造業界の発展に微力ながら、尽力させていただきますので何卒宜しくお願い致します。

・山田将寛さん(さくら構造)

建築構造設計に携わり、17年が経ちます。JSCAには、支部の構造設計交流会や講習会への参加がきっかけで入会しました。



JSCAでの活動を通じて構造技術の向上はもちろんのこと、ベテランと若手の懸け橋として北海道支部の盛り上げに貢献したいと考えています。

まだまだ未熟者ではございますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

・(株)加藤建設北海道営業所 所長 笹野さん

支部賛助会員として入会した加藤建設北海道営業所です。弊社は明治45年の創業以来、公共工事や一般土木・建築事業はもとより、パワーブレンダー工法によ



る地盤改良事業など積極的な技術開発やICT施工の導入など、さらなる進化を続けています。今後とも皆様の一層のご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

4. その他.....

今後の支部活動の予定についてお知らせいたします。(※現時点での予定)

- ・6/14 支部通常総会
- ・7/13 道内建築バスツアー
- ・9月 親睦ゴルフコンペ
- ・11月頃 構造設計交流会
- ・1~2月 講演会・新春交礼会

この他に、木造建築についての諸々を語り合い学ぶ「木造フリートーク」、鉄骨造について機械工業会鉄骨部会の皆さまと取り組んでいる鉄骨WGの協業による意見交換会や鉄骨工場見学など、実務に役立つ企画が計画されています。

今後にご期待ください。

○支部技術委員会・雪フォーラムの活動

支部技術委員会では以前から「雪フォーラム」と題して、北海道の構造設計において影響の大きい“雪”を主テーマに様々な活動をしています。既に支部のホームページに積雪に関するQ&Aや最深積雪量等の情報が提供されています。現在は支部会員が撮りためた写真画像等を活用して被害の事例を概説する資料の作成に取り組んでいます。これらの情報は積雪設計への経験が少ない道外の会員にも提供できるように準備を進めています。



巻き垂れ

緩勾配屋根の巻き垂れ。雪が壊れそうです。
勾配屋根の水下側に雪が堆積し、雪自身の持つ粘着力や固結力により庇のように成長する現象
屋根先端に大きな集中荷重が作用する



折板水下軒先の変形(被害:折板変形)

寒暖の繰り返しにより折板直上で氷結し、屋根上雪が折板先端よりもさらに跳ね出し荷重過多となり損傷した事例。
対策例として、軒先を覆われやラジアル形状にする、または、折板先端部に受け梁を配置する事例がある。

○編集後記

昨年の6月に新体制となり、コロナの影響も少なくなったことで、各委員会活動、(仮)青年部会の発足など動きが活発になってきました。その中で広報企画委員会では、過去に支部通信的なものを出していたということで、それを再開することになりました。まだどういうタイミングで出すかは未定ですが今後ともご協力をお願いします。

(JSCA 北海道支部 広報企画委員長 山城)